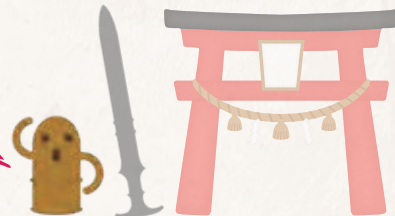


むかしむかし 昔々の そお市

郷土を知る

社会教育課 文化財係 ☎ 099-482-5958

第20回



財部と日光神社

財

部三社のひとつ日光神社は、財部に最もゆかりのある神社です。(財部三社とは日光神社・沢田神社・天子宮を指す)

古くは、大和政権の時代に、太陽信仰に基づく「財日奉部」という祭祀がこの地で行われていたといわれています。これが「財部」の語源といわれており、まさに「財部」は、非常に古くからある地名といえます。

その後、和銅三年(七一〇年)、加茂頼長が京都の上・下加茂神社および伊勢内宮天照大神を奉じて日州財部に下向、「日奉り」を実施していたと考えられるこの地に、日光神社を創建したといわれています。加茂頼長は蛭牟田家の先祖で、蛭牟田家は近代まで、代々日光神社の神主職を勤めていました。

また、昔は流鏑馬や鉤木引も行われていました。当時、鉤木引は毎年2月13日に行われ、農夫が南北にわかれ、神社の山から股のある木を切つて鉤を作り、北の農夫が伐り出したのを男鉤、南の農夫が伐り出したのを女鉤といい、こ

の両鉤を合わせて、大縄を多数付け、農夫が引いて勝敗を争いました。北俣、南俣の地名の由来は、この鉤木引からきたといわれています。北俣は、桜木村・日光神社・浦興善寺村・大峯村・古井村・坂元村、南俣は、柿木村・集村・須加村・図師村・上之村とされています。

これらのように財部と密接な関係があり、歴史ある場所に一度足を運んでみてはいかがでしょうか。



日光トンネル
財日奉部のイメージが描かれています。



日光神社
杉やクスなどの巨木に囲まれています。



ひまつりべ
日奉部

主に稲の豊作を願うための儀礼を司る、大和政権の時代の部所です。穀霊を招き降ろし、朝日が降りそそぐ東向きの神聖な土地で、豊作を祈る祭祀を行います。



三国名勝図会より
現在の形とほぼ同じであることがわかります